

公益財団法人 アジア保健研修所  
2014年度事業計画  
(第3期 2014月4月1日～2015年3月31日)

<b>はじめに</b>	1
<b>A. 研修事業</b>	
1. 国際研修	1
2. 研修生フォローアップ事業	
1) 英文ニュースレター発行	1
2) リュニオンセミナー（国別の元研修生会合）	1
3) 国際ワークショップ	2
4) その他のフォローアップ	2
3. 地域保健推進のための協働事業	2
①スリランカ	
②スリランカ	
③フィリピン	
④フィリピン	
⑤ネパール	
⑥パキスタン	
4. アジア各国間での学び合いの促進	3
<b>B. 国内活動</b>	
1. アジア理解のためのプログラム	4
1) オープンハウス	4
2) 初めて始めて講座	4
3) A H I 講座	4
4) アジアのN G Oワーカーと語る集い	4
5) 巡回交流会	4
6) スタディツアーア	4
2. 関連分野での情報および体験機会の提供	
1) 情報誌「アジアの健康」発行	4
2) 情報誌「アジアの子ども」発行	5
3) ホームページ運営	5
4) ボランティア・インターの受け入れ	5
3. 他団体との協力	5
1) 他団体への講師派遣	5
2) 団体・ネットワークへの加盟	5
3) 他団体との協力による政策提言活動	5
4. その他	6

## C. 法人運営

1. 理事会・評議員会	6
2. 賛助会員募集・募金活動	6

## はじめに 2013 年度から 2014 年度へ

### ■研修事業

この 10 年ほど元研修生との協働を事業の柱として掲げてきた。そのためには、研修生との関係を活性化することが不可欠であり、また AHI としてのフォローアップや協働の事業枠を提示しつつ、彼らによる自発的な動きを醸成することが必要である。

2013 年 11 月に行ったインドの国別リユニオン（元研修生会合）では、次年度に自国でリユニオン会合を計画しているバングラデシュの元研修生やゲストスピーカーとしてタイの元研修生も参加し、より広く経験交流の場とすることことができた。

今年度はリユニオンを 2ヶ国で、国際ワークショップ 1 回計画しており、それらの機会を最大限に生かして、より広い経験交流を実現し、かつその後他の研修生による動きへつなげたい。そのためにも当該各事業に関して、記録作成を意識的に進める。

### ■国内活動と支援者獲得

#### 共感から支援へ

AHI 講座は、多様なテーマを設定して新規の人たちとの接点を得ることを目的とする。2013 年度に行ったもののうち、たとえば元研修生を講師としたヨガとアーユルベーダに関する講演に新しい人たちが他のものよりも多くの参加があった。情報が豊富になった今、参加者を獲得するには、テーマを絞ったものにする必要がある。

引き続きテーマの多様性を確保し、同時に参加の仕組みに関しても選択肢を増やすなど、潜在的な関心層の期待に応え、活動や支援に参加

することがしやすいものとなるよう検討する。

また、会員やボランティアの協力を得て、彼らからの発信を増やすように努める。またアジア各国でも急激に広まっているフェイスブックなどのソーシャルネットワークサービスも積極的に活用する。

新規の人に対して AHI に関心を引き、プログラムへの実際の参加を経て、趣旨に賛同を得るまで、一連のプロセスを意識的に行う態勢を整える。

### A. 研修事業

#### 1. 國際研修

世界規模で急激に進む市場経済の中、各国において貧富の格差が広がっている。他方、地方分権が進み、NGO や市民活動への認知も年々高まり協働も広がっている。住民中心の保健・開発活動を推進するためには、NGO にはどのような役割が、NGO ワーカーにはどのような資質が求められるかを、新たな状況の中で考えることが重要である。

当研修は、アジア諸国の地域保健・開発ワーカーが、経験交流、議論を通して、ふさわしいリーダーシップを身につけることを目的とする。

\*テーマ：

\*内容

各研修生の経験に基づき、事例発表や討議を行う。同時に日本の地域を訪問する。研修終盤には研修成果を自国での活動の中で活かすための実行計画を作成する。

\*期間 2014 年 9 月 7 日～10 月 13 日

\*場所 AHI および日進市近郊および広島

\*対象・参加者

アジア 7～8ヶ国から 12～13 名

保健・開発分野の地域活動に従事する NGO  
職員（及び住民組織のリーダー）

## 2. 研修生へのフォローアップ事業

### 1) 英文ニュースレターの発行

元研修生や国内外の関係団体を対象に、英文のニュースレターを発行し、アジア各地および日本での保健・地域開発活動の情報を提供する。毎号テーマを設定し、元研修生や関連団体から原稿を募り、活動経験や意見を共有する場とする。

2014年4月、8月および12月、各1,000部発行予定。

### 2) リュニオンセミナー（国別研修生会合）の開催

当該国の元研修生間の情報交換を促すとともに、新たな学習、ネットワークの機会として、国別に開催する。開催は元研修生からの自発的な発案によるものとし、企画立案・準備も元研修生有志による体制を基本とする。本年度は下記2ヶ国で開催する。①バングラデシュ

日時：2014年7月11日～14日

場所：バングラデシュ西部ラジシャヒ県

協力団体：DASCOH

②インド

日時：2014年11月17日～20日

場所：インド南部ケララ州

協力団体：AYUSHYA

### 3) 国際ワークショップ

2012年度から協働事業をすすめているINAM\*とその事業地の自治体が受け入れ団体となり開催する。先住民居住地域における保健ボランティア育成と代替医療の推進をテーマに、アジア各国で同様の取り組むNGO関係者等を招き、経験交流とネットワークづくりを図る。

日時：2015年2月～3月 10日間

場所：フィリピン・ルソン島リサール州  
タナイ町

対象：AHI元研修生と関係者

数か国から 計20数名

協力団体：INAM

\* INAM: Integrative Medicine for Alternative  
HealthCare Systems, Philippines Inc

### 4) その他のフォローアップ

国際研修の研修生に帰国後もAHIや他の研修生との関係を継続するよう、次のような働きかけや環境整備をおこなう。

\*誕生日に職員が寄せ書きしたカード、年末にはグリーティングカードを送付する。

\*ホームページ上の「活動便覧」（元研修生が自分の活動の参考とするため、特定の分野や国で他のAHI元研修生の活動をウェブ上で検索できる機能）の充実と活用の促進。

## 3. 地域保健推進のための協働事業

元研修生による特定地域での開発事業に協力する。

下記①～③は2010年度から、④は2012年度からの継続であり、⑤～⑥は2014年度より新規開始の事業である。

### ①少数民族の人々のリーダーシップ育成

マリー・プリンシー（2009年国際研修参加）

の所属団体 Janawaboda Kendraya (JK) との  
協働

（スリランカ）

スリランカ西部のニゴンボおよびコロンボ地域で、社会的に存在が認められていない「テリング」（インドからの移住民）の人たちのリーダーシップ育成、保健活動などを支援する。昨年度から新たに北東部のトリンコマレ地域に活動が広まった。職員出張時の協議の結果、

今後 2 年間、当該 3 地域の特徴、状況に合わせ、その後の継続性を念頭に支援を行う。

## ②茶農園地域の教育環境への支援

### 元研修生所属の団体 HDO (Human Development Organization)、Satyodaya、ほかとの協働 (スリランカ)

スリランカの茶農園で働くインドタミル(インドからの移住民)の人たちは茶農園内部に居住を余儀なくされ同国の中でも低い地位に置かれてきた。この地域で生活改善に取り組む元研修生が、それぞれの活動地域にある公立学校を拠点に、主に就学期の子どもたちの教育環境改善のための活動を行う。今年も引き続き、保護者だけでなく地域の人びとの教育に対する意識向上、協力への呼びかけを強化し、地域づくりの一環としての要素を強める。

## ③ヘルシーライフスタイルプロジェクト

### 元研修生有志 ANAK-NC との協働

#### (フィリピン)

ミンダナオ島北ダバオ州ニューコレリア町の村保健センターの下で活動する保健ボランティアや栄養改善ボランティアを主対象として研修を行い、彼らがすすめる食生活改善を含めた健康増進活動を支援する。

この事業は、AHI の元研修生である同町保健課課長を責任者とし、元研修生有志グループがコーディネーターを担う。2013 度から 1 村が加わり、実施地域が計 4 村に広がった。各村で健康フェスタなど広く関心を呼ぶ行事を開催して、活動の充実をさらに図る。はじめから活動に加わってきた 2 村では、健康指標の測定を行い成果のモニターを行う。

一連の活動を長年 AHI と協力関係にあった IPHC(ダバオ医科大学プライマリヘルスケア研修所)が、ANAK-NC の運営面の能力強化支援をする。

## ④保健ボランティア育成と代替医療の推進元

### 研修生の所属団体 INAM との協働

#### (フィリピン)

INAM がルソン島のリサール州タナイ町とケソン州ジェネラルナカール町で進めてきた、先住民居住地域の保健ボランティアの育成に協力する。タナイ町では、行政と連携し、この町の保健職員と保健ボランティアからなる研修チームが担う新たな保健ボランティア育成研修や、近隣自治体の要請に応じた研修実施を支援する。ジェネラルナカール町では、昨年度延期となった保健ボランティア活動運営強化研修を、自治体の協力を得て実施する。

また、3 年の活動の記録をまとめ、国際ワークショップを開催して、広く経験を共有する。

## ⑤地域住民の社会心理的課題に対する意識

### 向上とメンタルヘルス推進

### 元研修生所属団体 Kopila Nepal との協働

#### (ネパール)

内戦終結後、開発が進み貧富の差が拡大するネパールでは、トラウマや鬱などメンタルヘルスの問題が浮上している。特に地方では治療体制も遅れている。メンタルな問題を抱えた者に対する差別は根強く、社会課題がもたらすメンタルヘルスの問題について一般の人びとの意識は低い。そのため、適切な治療や社会復帰のための支援が受けられないまま症状を悪化させている人たちが地方の村々には多く存在する。

協力団体では、メンタルな問題を抱えている人たち、リスクの高い人たちおよび彼らの家族による自助グループを組織化し、運営能力の向上に努めている。

この事業では、ネパール西部ポカラ周辺の 2 郡において、このグループのメンバーの中から、草の根カウンセラーの育成を図ると同時に、行

政職員や教師、住民を対象に研修を行う。尚、当事業は2014年度から5年間を計画している。

#### **⑥元研修生所属団体 エイズ啓発協会 AIDS Awareness Society (AAS) との協働 (パキスタン)**

2013年度国際研修のパキスタンからの参加者が帰国後のアクションプランとして立案した研修会の実施を支援する。次世代の人材育成のため、参加型研修の理念や手法を基に、健康と平和づくりをテーマに参加型研修を行いたいという要望に応えるものである。

期間：2014年5月24日～6月2日（10日間）

場所：パキスタン北部ラホール市内

対象：地域開発を行う地元NGO・住民組織の

若手・中堅ワーカー16名

### **3) アジア各国間での学び合いの促進**

アジア各国の元研修生がそれぞれ持っている経験、機会を互いに生かすことができるよう環境を整える。また近年、アジア各国の状況の変化に伴い、日本の課題との共通性も高まってきた。日本も含め、アジアの地域内での経験交流を促進する。

#### **① タイ全国保健大会の経験共有**

タイでは、中央政府の保健施策を住民のニーズに基づいたものにするために各地方で集会を行い、ボトムアップによってニーズを集約し、また保健以外の多様な分野の関係者の関与、連携によって、毎年12月に全国保健大会が行われており、この事務局の中核をAHIの元研修生数名が担っている。

この行政と多様な関係者との連携による保健政策提言活動を、タイ国内外のAHI元研修生に広く知らしめ、参加を促す。

#### **② その他**

#### **\* フィリピン SIAD 冊子の増刷・活用**

ニューコレリア町における参加型まちづくり（SIAD）の経験をまとめた冊子（2012年出版）を増刷し、2013年の地方選挙後、新任された自治体議員や職員向けの研修に使用する。協力団体：IPHC

#### **\* スリランカ PIADS 冊子の英訳・出版**

プットラム県カルガラガスウェワ町における参加型地域開発（PIADS）の経験をまとめた冊子（シンハラ語 2010年出版）を英訳し、出版する。近年同国で地方分権が進み、先駆的な事例としての同事業が参考になるものと考えられる。協力団体：NAFSO

## **B. 国内活動**

### **1. アジア理解のためのプログラム**

#### **1) オープンハウス**

初めてAHIに接する人には気軽に参加できる機会として、また年に一度の恒例行事として、「楽しくアジアとAHIに触れるお祭り」オープンハウスを開催する。

企画・実施は、ボランティアが組織する実行委員会が中心的に担う。実行委員会では、当日に向けて準備を進めつつ、国際協力や地域開発への理解を深める。

企画の充実と同時に、新しい来場者を得るために、積極的に幅広い広報に努める。

日時：2014年10月13日（祝・月）

場所：アジア保健研修所（AHI）

#### **2) 初めて始めて講座**

国際協力、あるいはボランティアなどに関心のある「新規」の人を対象として、活動紹介のための講座を毎月1回、第四土曜日に開催する。様々な媒体を通じて広報を行い、より多くの参

加者を得ることに努める。

その後、AHI のボランティア活動やプログラムへの参加につなげるよう、参加者同士の交流や他の活動との連携を図る。

### 3) AHI 講座

職員など関係者を講師として、アジア各国の情報、人々の暮らしや文化、地域開発のアプローチなど、関連した諸分野のテーマを掲げ、隨時、講座を開催する。国際研修の参加者にも協力をあおぎ、講演会を実施する。会員・ボランティアによる講演会の機会も積極的に作る。

日時：年間 4 回程度

場所：名古屋市内もしくは AHI

### 4) アジアの NGO ワーカーと語る集い

会員、地域の市民、ボランティアを対象に、国際研修の研修生をリソースパーソンとして。アジア各国の状況、NGO や住民組織による取り組みを聞き、同時に日本の状況や課題に照らして考える。

英語の通訳ボランティアも募り、語学への关心から、アジアの開発課題に触れ、また、AHI の他の活動への参加を促す。

日時：2014 年 9 月下旬

場所：アジア保健研修所（AHI）

### 5) 巡回交流会

「ひとつかみサポーター」獲得のキャンペーンとの関連で、本年 11 月にバングラデシュの AHI 協力団体の Jagorani Chakra Foundation から元研修生と女性住民リーダーを招聘して実施する。

また、国際研修の参加者で適切と思われる人には終了後滞在延長を依頼し、数ヶ所で講演会を実施する。

### 6) スタディツアーア

元研修生及び所属団体の協力を得て、アジア各国の農村部へのツアーアを実施する。対象は高校生以上とし、参加者を募る。定員は 20 名程度。ホームステイなどを通して生活体験を持つと同時に NGO がファシリテーターとする開発活動を観察する。

2014 年度は昨年度に引き続き、バングラデシュを訪れる。

実施時期：2015 年 3 月下旬

## 2. 情報および体験機会の提供

### 1) 情報誌『アジアの健康』の発行

アジア各地の状況、開発課題、およびそこでの NGO や住民による取り組みを伝える。できるだけ具体的な情報を提供し、読者が身近に感じることができるものとなるように努める。またボランティアとして関わる人たちの様子も取り上げ、市民による国際協力への関心を高める。年に 5 回、各回 4,000～5,000 部発行。

うち 1 号は、通常より簡便な形（A4 紙 1 枚両面）とし、アジア各地で働く NGO 関係者に焦点をあて紹介する。

### 2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

日本の子ども（小学校高学年を主対象）向けに、現地での地域開発の活動も織り交ぜて、同時代を生きるアジア各地の子どもたちの日常をわかりやすく伝える。年に 2 回、各 6,000 部発行。

さらに紙面を素に、紙芝居などの教材を作成し、オープンハウス等の主催事業だけでなく、外部からの要望に応じて出前講座も行う。

### 3) ホームページ運営

現在のホームページの色調が、弱視の方には見づらいというコメントを受けて、新年度に

トップページの改定を行う予定をしている。

また、内容においても充実を図り、多様な関心にも丁寧に応えていけることを目指す。

またフェイスブックを通して、日本国内の支援者・関心層と

アジアの元研修生が、同一の記事に対してそれぞれにコメントを寄せる状況が生まれている。こういった AHI を通じた気軽な交流の機会がより活性化するよう、双方の関心を生み出す記事の掲載に心掛ける。

#### 4) ボランティア/インターン受入れ

学生や社会人を対象に NGO の活動の現場を体験する機会を提供する。さらに、多様な人たちの関与を促し、異なる背景や世代の人たちが交流し、学び合う場を作る。

### 3. 他団体との協力

#### 1) 他団体への講師派遣

要請に応じて、職員や関係者を講師として派遣し、アジアの状況を伝える。

昨年度に引き続き、近隣の小学校には積極的に「体感アジア！」国際理解講座として、その受け入れを働きかけていく。(東海地域 NGO 活動助成金事業)

#### 2) 団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動をともに進める。< >内は職員の各団体における現役職名。

- ・名古屋 NGO センター<理事>
- ・名古屋キリスト教協議会<書記>
- ・市民フォーラム 21 名古屋 NPO センター
- ・障害分野 NGO 連絡会<幹事>
- ・日比 NGO ネットワーク
- ・日本キリスト教協議会
- ・カンボジア市民フォーラム<世話人>

・開発教育協会

・あじさい会（日進市内の事業所交流会）

・ゆるやかネットワーク（日進市市民団体協議会）<理事>

・パートナーシップサポートセンター

この他、職員が次の団体の役職を務める。

・社会福祉法人さぶらん会<評議員>

・名古屋 YWCA<評議員>

#### 3) 他団体との協力による政策提言活動

##### a) 名古屋 NGO センター

東海地域の NGO ネットワークである同センターの加盟団体として、国際協力機構 (JICA) や外務省などに対して行う政策提言活動に関わる。

##### b) カンボジア市民フォーラム

カンボジアに関わる日本の団体のネットワークである同フォーラムに加盟し、同国の開発、保健政策への提言、また援助国・国際援助機関に対する提言活動に関わる。

##### c) 日比 NGO ネットワーク

フィリピンに関わる日本の団体と現地の NGO との情報交換、交流と協力を推進する同ネットワークに加盟し、フィリピンの諸課題について日本の市民の関心を高める活動や日本政府の援助政策に関する提言活動に参与する。

### 4. その他

#### \* 日進市市制 20 周年記念事業

##### 「ウォーキングマラソン対抗戦」

フィリピン、ニューコレリアでのヘルシーライフスタイルプロジェクトを念頭に、健康関連テーマで、広く市民が関わることができるプログラムとして、この事業を行う。市内の事業所、地域に 3 人一組での参加を呼びかけ、一定期間内の歩数総数を競うものである。

実施期間（予定）

参加呼びかけ 6月～9月  
対抗戦キックオフイベント 10月  
終了イベント 2015年2月

### ● 賛助会員のニーズへの対応

多様になってきた支援者のニーズに沿うために、支援者の高齢化に伴いニーズが高まった「想いを伝える遺言書の書き方講座」を年に2回程度実施する。

## C. 法人運営

### 1. 理事会・評議員会

新公益法人として組織ガバナンスの機関としての評議員会、事業執行をおこなう理事会、それぞれの機能を充実させる。

2年任期の理事は新任期の1年目となる。

### 2. 賛助会員募集・募金活動

公益事業の遂行のための経年の経費をまかなくするために、下記のように、賛助会員募集および募金活動によって、資金を獲得する。

#### ＜新規＞

##### ● 「ひとつかみサポーター」の強化

2010年度に開始した「ひとつかみサポーター制度」（月額引落）は、現在118名の協力者が得られている。

前年度に引き続き、初めての接点（問い合わせやプログラム・ボランティア活動参加）の際、丁寧にコミュニケーションをはかり、その後適宜情報提供をすることによって、フォローアップを行い、財政支援につなげる。一連の働きかけを系統的に行う。また、新しく接点を作るための方策を、国内事業との連携等で作り出す。

#### ＜継続＞

##### ● 継続率向上

2013年度の年会費納入率は、約65%の見込みである。自動退会者を防ぐために整えている諸制度（自動引落や銀行口座情報など）の案内をさらにすすめる。

### ■ 会費収入見込み 計 15,700,000円

#### a) 新規会費 目標 150,000円

平均年会費額 3,000円

×新規会員目標数 50名

#### b) 継続会費 目標 13,600,000円

平均年会費額（2013年度実績）6,403円

×納入依頼者数 2,792名（年度当初予想）

×納入率 76% = 約 13,600,000円

\* 納入率 2013年度実績見込は、65%であるが、それよりも高い目標を掲げている。

#### c) ひとつかみサポーター目標 1,932,000円

2013年度までの協力者によるもの

（見込） 1,692,000円

2014年度の新規（目標） 240,000円

＜月額 1,000円 × 目標新規 40名 × 6ヶ月 ＞

### ■ 寄付収入見込み 計 33,000,000円

#### a) クリスマス・お正月募金

目標額：20,000,000円

（2013年度実績見込 17,181,635円）

期間：2014年12月1日

～2015年2月28日

#### b) 一般寄付 目標額：13,000,000円